

会社の概要

会社名	東洋合成工業株式会社
本社	東京都台東区浅草橋1丁目22番16号 ヒューリック浅草橋ビル8階
設立	1954(昭和29)年9月27日
資本金	1,618,888,703円
従業員数	677名(2019年9月30日現在)
事業内容	・ディスプレイ(液晶並びに有機EL)用、並びに半 導体用として各露光波長に対応した(紫外線、 KrF、ArF、EUV各世代)感光材、ポリマー製品 ・半導体・電子材料向け高純度合成溶剤、香料向 け化学品、液体化学品の保管管理・物流倉庫業
ホームページ	https://www.toyogosei.co.jp/

役員

代表取締役社長	木村 有仁	常勤監査役	森 寧
常務取締役	出来 彰	監査役	宮崎 誠**
取締役	平澤 聡美		越山 滋雄**
	宮澤 貴士		
	渡瀬 夏生		*社外取締役
	鳥井 宗朝*		**社外監査役

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日
定時株主総会	毎年6月下旬
剰余金の配当の基準日	3月31日 中間配当を実施するときは9月30日
定時株主総会基準日	毎年3月31日 ※その他必要がある場合は、予め公告いたします。
単元株式数	100株
公告方法	電子公告により行います。 公告掲載URL https://www.toyogosei.co.jp/ir/koukoku.html ただし、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載する方法により行います。
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
株式の諸手続き	口座を開設されている証券会社までお問い合わせください。 特別口座をご利用の株主様は、みずほ証券株式会社およびみずほ信託銀行株式会社0120-288-324(フリーダイヤル)までお問い合わせください。

 東洋合成工業株式会社

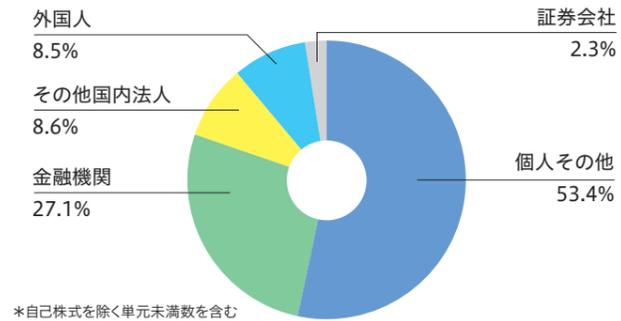
〒111-0053 東京都台東区浅草橋1丁目22番16号
ヒューリック浅草橋ビル8階
TEL 03-5822-6170



株式の状況

発行可能株式総数	30,000,000株
発行済株式総数	8,143,390株
株主数	4,795名

株式の分布状況



*自己株式を除く単元未満数を含む

大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
木村 有仁	1,094	13.8
木村 愛理	583	7.3
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	499	6.3
日本トラスティサービス信託銀行株式会社(信託口)	350	4.4
株式会社千葉銀行	298	3.8
株式会社きらぼし銀行	298	3.8
木村 正輝	278	3.5
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	248	3.1
株式会社TGホールディング	200	2.5
公益財団法人東洋合成記念財団	200	2.5

当社は、自己株式を206千株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。
また、持株比率は自己株式(206千株)を除外して計算しております。

 TOYO GOSEI

第70期 第2四半期報告書

2019年4月1日 ▶ 2019年9月30日



業績ハイライト

■決算概要

当第2四半期は、半導体メモリ、ディスプレイ、電子材料の市場環境に減速感があったものの、ロジック向け、およびEUV世代向け感光材、並びに先端半導体向け高付加価値・高純度溶剤の販売が増加したことなどにより、売上高は前年同期比9.1%増の12,189百万円となりました。営業利益は、同45.7%増の1,168百万円、経常利益は、同26.4%増の1,064百万円、四半期純利益は、同26.0%増の693百万円となりました。

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	前年同期比
	12,189百万円	1,168百万円	1,064百万円	693百万円	9.1% 45.7% 26.4% 26.0%

■当第2四半期のポイント

- POINT 1 半導体用途の材料を主とした需要の増大により、前年同期比で増収・増益
- POINT 2 感光性材料セグメントは、ロジック向け、およびEUV世代向け感光材の販売が拡大し、増収・増益
- POINT 3 化成セグメントは、一般電子材料製品は減少したものの、先端半導体プロセス向け高純度溶剤、香料材料の販売が増加し、ロジスティック部門も高稼働が続き、減収・増益

業績概要

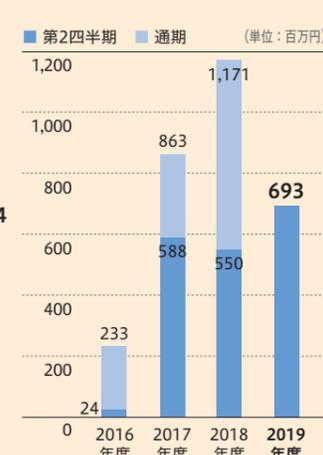
売上高



営業利益/経常利益



四半期(当期)純利益



総資産/純資産





代表取締役社長

木村 有仁

中計目標達成に果敢に挑戦

当第2四半期の決算概要

当期の国内経済は、引き続き雇用・経済情勢は堅調に推移し、個人消費は緩やかに回復しましたが、米中貿易摩擦など、海外経済の減速もあり、景気回復には足踏み感が見られました。

世界経済は、米国では製造業を中心に減速感が見られる中、良好な雇用環境・金融環境が個人消費を下支えし、経済は堅調に推移しました。一方、欧州では外需減速の影響で、経済は低成長を継続、中国でも米中貿易摩擦による外需の低迷と内需の回復遅れが見られました。さらに、米中貿易摩擦の推移、英国のEU離脱や金融資本市場の変動、各国・地域における地政学的リスクなど、注視が必要な状況が続いております。

このような状況のもと、当社は2018年8月10日発表の中期経営計画「TGC300」に基づき、お客様との関係強化、積極的な拡販、新製品の開発、コスト削減に取り組み、当第2四半期決算は、売上高12,189百万円(前期比+1,012百万円、+9.1%)、営業利益1,168百万円(同+366百万円、+45.7%)、経常利益1,064百万円(同+222百万円、+26.4%)、四半期純利益693百万円(同+142百万円、+26.0%)と増収増益となりました。

中期経営計画「TGC300」の進捗

当期は、前期に発表した5か年中期経営計画「TGC300」の2年目となります。足元では電子材料関係の市況が低迷する中、計画に対し、売上高は△2.5%の未達となったものの、経常利益は計画比+18.2%と大きく超過できました。市場の先行きは不透明な状況が続いておりますが、今後も産業発展への寄与を旨とし、計画達成に向けてまい進してまいります。

取り組み状況について

感光性材料セグメントでは、半導体メモリ分野およびディスプレイ分野に減速感が見られたものの、ロジック半導体向け分野は好調を維持することができました。また新規EUV世代感光性材料の需要も堅調に推移し、先端半導体向け感光性材料の新規開発品の需要も増加し、感光性材料事業全体として事業成長を遂げる結果となりました。これも皆さまのご支援の賜物と心から感謝申し上げます。

また、中長期の需要増加に対応するため、2017年から進めている生産能力増強投資の第3弾となる新製造棟は2019年6月に着工し、2020年夏の竣工に向けて順調に建設を進めております。新製造棟と既に完了している生産能力増強を合わせ、2020年年度末には、2017年度比約1.7倍の生産能力を見込んでおります。今後のIoTや電子デバイスの拡大、自動運転やAI等の進化、5G通信普及による大幅なデータ量増大によるメモリの需要増など、中長期に拡大する市場で必要とされる高品質な機能性化学品の安定供給を果たし、事業の拡大とともにより大きな社会的責任を果たしてまいります。

化成セグメントの電子材料関連分野は、スマートフォン用途のデバイス、データセンター向け半導体メモリ需要などの軟化が見られたものの、感光性材料同様、先端半導体向けの高品質・高純度な溶剤の需要は拡大しました。香料材料分野では、世界的に厳しくなる調達標準に対応し、海外の香料メーカーを中心に需要が拡大しました。今後、高純度合成技術と精製技術をさらに高め、お客様のご要望に真摯に応える高品質を実現し、安定供給を継続してまいります。

またロジスティック分野では、サプライチェーンの変化が激しい化成セグメントにおいて、顧客満足度の向上に努め、タンク契約率、回転率ともに高水準で推移しました。引き続き将来の自動化や安全への取り組みを加速させ、化学品メーカーならではのサービス向上を目指してまいります。

株主還元について

株主の皆さまへの還元につきましては、安定配当の維持を基本としつつ、業績、配当性向、財務バランスなどを総合的に勘案して決定しております。これらの方針を踏まえ、当期の中間配当は、前期の1株当たり5円から10円へと増配させていただきました。今後も、事業成長のための投資と、財務バランスを勘案しつつ、社業の拡大とともに、株主の皆さまへの還元を行っていきたく考えております。

株主の皆さまにおかれましては、何卒、当社にご理解を賜り、引き続き変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

TOPIC

感光性材料(千葉工場)新製造棟建設中

当社は第1弾のディスプレイ向け感光性材料、先端半導体向けポリマーの製造能力増強(2018年4月完了)、第2弾の先端半導体向け感光性材料の製造能力増強(2019年2月完了)を実施しました。さらに今回第3弾となる新製造棟の建設を進め、2020年夏頃の完成を予定しております。これら計3回の能力増強施策により、2017年度比で約1.7倍程度の生産能力拡大を見込んでおります。現在、工場の建設は、計画通り順調に進んでおります。

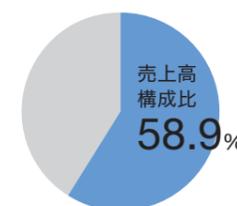


【新工場の概要】

名称：感光性材料(千葉工場)新製造棟
所在地：千葉県香取郡東庄町宮野台1番51号
稼働予定年月：2020年夏頃
生産品種：半導体・ディスプレイ向け感光性材料、およびその関連材料
延床面積：約7,000㎡
投資額：約70億円

セグメント情報

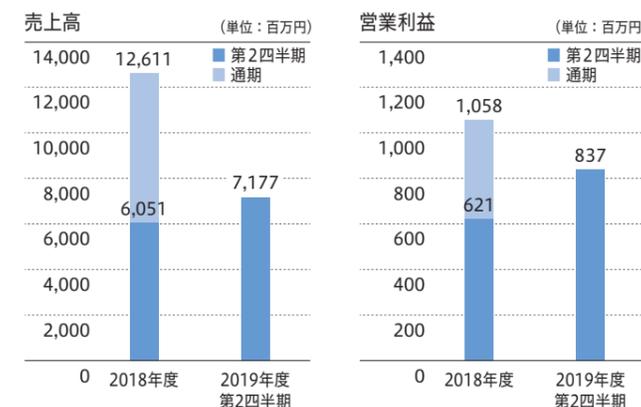
感光性材料セグメント



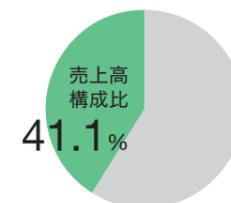
業績の概況

半導体向け感光性材料は、半導体メモリ市況、およびディスプレイ市況の軟化が続いたものの、ロジック向け製品は好調を維持しました。また、新規EUV世代向け感光性材料も需要が着実に伸長し、当社では新規領域製品となる半導体後工程向け材料の販売増加もあり、感光性材料全体としては堅調に拡大しました。

この結果、同事業の売上高は7,177百万円(前年同期比+1,126百万円、+18.6%)、営業利益は837百万円(同+215百万円、+34.7%)となりました。



化成セグメント



業績の概況

化成セグメントは、半導体メモリ分野やスマートフォン向けの電子材料関連は、需要が軟化し、販売は減少したものの、先端半導体プロセス向けの高付加価値・高純度溶剤製品の販売は堅調に推移しました。また、香料分野では海外香料メーカーへの販売が拡大し、ロジスティック部門はタンク契約率、回転率ともに高稼働が続きました。

この結果、同事業の売上高は5,011百万円(前年同期比△114百万円、△2.2%)、営業利益は331百万円(同+151百万円、+83.9%)となりました。

